

(2) 医師数増加に向けての日本医師会の考え

日本医師会は、国が医師数増加に転じたことを評価するが、医師数の増加は、財源の確保を絶対の前提条件として進めるべきである。そのことを強く主張した上で、医師数増加の考え方についていくつか示す。

1) 人口1,000人当たり医師数をOECD平均水準にした場合

人口1,000人当たり医師数は、OECD平均3.0人(2005年)、日本2.1人(2006年)である。仮にOECD平均を目標とする場合、日本の医師数を約1.5倍にしなければならない。

2) 医師不足地域の底上げを図るとした場合

日本の人口1,000人当たり医師数は平均2.1人であるが、二次医療圏別に見ると2.1人未満の二次医療圏が76.0%ある(図1-2-6)。そこで、仮に、人口1,000人当たり医師数が2.1人以上の二次医療圏では医師数を据え置き、平均未満の二次医療圏では、一律2.1人に引上げるとする。このとき必要な医師数は307.7千人で、現状(2008年)266.4千人の1.15倍である。

